

令和 6 年度 第 1 回 土岐市総合計画審議会 議事録

1. 開催日時・場所

令和 6 年 10 月 4 日（金）午前 9 時 30 分から 11 時 40 分
土岐市役所 3 階 大会議室 3AB

2. 次第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 土岐市総合計画審議会について
4. 会長・副会長選出
5. 諮問
6. 議事
 - (1)第七次総合計画策定方針・スケジュールについて
 - (2)第六次総合計画について
 - (3)総合戦略について
 - (4)第七次総合計画について
7. その他
8. 閉会

3. 資料

- 【資料 1】 総合計画審議会委員名簿
- 【資料 2】 第七次土岐市総合計画の策定方針
- 【資料 3】 第六次土岐市総合計画 概要版
- 【資料 4】 第六次土岐市総合計画の実施状況および効果検証について
- 【資料 5】 令和 5 年度市民意識調査結果 まとめ
- 【資料 6】 第 2 期土岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略 実施状況および効果検証について
- 【資料 7】 第七次土岐市総合計画について
- 【資料 8】 第七次土岐市総合計画策定スケジュール

4. 出席者

（審議会委員）12 名

菊地 裕幸	宮地 喜博	山口 文子	加納 弘夫	石黒 信彦
小川 大輔	宍戸 乃梨子	戸松 陽子	鈴木 美好	広瀬 雅史
加藤 幸代	小森 直人			（敬称略）

（傍聴者）4 名

5. 議事要旨

I. 決定事項

(1)第七次総合計画策定方針・スケジュールについて

- ・資料のとおりの方針、スケジュールで進めることについて承認。

(2)第六次総合計画について

- ・資料の内容を確認、了承。

(3)総合戦略について

- ・資料の内容を確認、了承。

(4)第七次総合計画について

- ・資料の内容を確認、了承。

II. 指摘事項・課題

自己紹介、まちづくりへの意見

- ・人口減少が進んでおり、その改善が課題となっている。人を集める市にしたい。
- ・魅力のある素晴らしい住みよいまちにして人口減少を解消する。
- ・必ず目標を達成するという意気込みでやる。
- ・地域共生社会を作る上で、制度の狭間で苦しんでいる人やヤングケアラーの支援が必要。
- ・こどもが減り、PTA のなり手が不足している。
- ・こどもの支援というと小学校の低学年以下を想定しがちだが、中高生にも目を向けていただきたい。
- ・土岐市は防災会議が民間主導で立ち上がっている。民間の防災の力を大きくしていきたい。
- ・孤独死を増やさないよう、土岐市で暮らして良かったと言われるまちづくりをしたい。
- ・町ごとの意識、不公平感を無くし、公平に保たれた市にしたい。
- ・子どもたちに良い思い出を残し、将来住み続ける、あるいは戻ってくるような市にしたい。
- ・丘陵地や東濃弁に魅力を感じている。ユニークで最先端の研究機関など、今ある資源を生かしたまちづくりをしていただきたい。
- ・学校を訪問すると子どもたちは本当に素晴らしい。土岐市には素晴らしいものがたくさんあり、子どもたちにも土岐市にいたいと思ってもらえるようにしたい。
- ・市民が読んでワクワクするような総合計画にしたい。

議事(1)第七次総合計画策定方針・スケジュールについて

- ・計画期間が 10 年は長いのではないかと。
 - ⇒ ・基本構想の計画期間は 10 年となっているが、実施計画は 3 年で毎年見直しすることとしている。また、第七次の総合計画から施策は実施計画で位置付けることとし、時代の変化に柔軟に対応する。また、基本構想は中間年の 5 年で必要に応じて見直しをする。

議事(2)第六次総合計画について

- ・他市と比較して合計特殊出生率が低いのはなぜか。
 - ⇒ ・生涯未婚率が高いことが理由の一つと考えている。
- ・他都市から来た医師が地域に根付いていない。地域医療を充実させていくことが大事である。
 - ⇒ ・行政で気付かない点をご指摘いただいたき、計画の参考としたい。
- ・バスは利用者が少ないため路線が減るという悪循環に陥っている。高齢者パスなどバスの利用促進を行うといいのではないかと。
 - ⇒ ・全国的にバスの運転手不足が課題。市としてできることを考えていく。
- ・1つの施策に重点を置くなど優先順位をつけて実施すべきではないか。
- ・人口増という大きな目標を掲げて、それに向けた施策を展開していくのがいいのではないかと。

- ・人口増に向け安心して子育てできる地域づくりに予算をかけていく方がいいのではないかな。
- ・多数の目標があると、あれができない、これができないになる。人口減少が一番の大きな問題。土岐市として一つの大目標を作って、市の人口を増やすということでやっていけば、交通が便利になったりする。
- ・人口は、子育てが安心してできないと増えない。子育てしやすいまちを目標にして成功している事例はある。高齢者は多少我慢しても、これから子どもたちにお金をかけていくことも大事ではないかな。

⇒ ・人口減少や公共交通に関しては、事務局としても大きな問題と捉えている。そういったことを今回の計画のなかに盛り込んでいく。どのように盛り込んでいくかを審議会で議論したい。

・予算が潤沢にあるわけでもないのに、今の課題を解決するためのキーポイント、どこを抑えて、どのように展開していくのか、重点を置き皆様のいろいろな立場から、いろいろな視点からご意見をいただきたい。

- ・誤解を招かないように、資料中のグラフの軸の単位などは合わせたほうが良い。

⇒ 次回以降の資料はご指摘いただいた点に注意する。

議事(3)総合戦略について

- ・今後実施するアンケートや懇談会は、審議会の意見を踏まえた内容とした方がよいのではないかな。

⇒ ウェルビーイング調査は実施中のため、今年度実施する市民意識調査を、意見を踏まえて実施する。

- ・転入促進策として何を考えているのか。

⇒ 定住奨励金を実施している。他都市でも実施されており、差別化が課題と捉えている。

議事(4)第七次総合計画について

- ・意見なし。

その他

- ・アンケートは若い人が答えやすいように SNS などを活用した方がよい。

⇒ アンケート票に 2 次元コードを記載し、Web でも回答できるよう配慮している。SNS での調査も検討する。

- ・アンケート結果や事業評価はあるが、なぜ、その結果、評価になったかが分からない。庁内で分析していることを提供してもらえるとよい。

⇒ 必要な資料を提供できるよう努める。

Ⅲ. 次回審議会

- ・各種調査結果、将来人口（人口ビジョン）素案、基本構想（骨子）を提示する。
- ・次回開催は 12 月 23 日（月）午後 2 時から

6. 記録

1 開会

事務局 本審議会の成立について、委員 15 名中 12 名の出席があり、土岐市総合計画審議会規則第 4 条第 3 項により、本審議会は成立。

2 市長あいさつ

市長 総合計画は 10 年に 1 回の計画。10 年間に社会情勢が大きく変わった。4 月に人口戦略会議による消滅可能性自治体の発表があり、自治体の 4 割、744 の自治体が消滅するという衝撃的な報告だった。少子高齢化、あるいは急速な人口減少の傾向は大きく変わらず、大変深刻な状況である。土岐市は幸いにも消滅可能自治体のリストからは外れたが、人口減少は続いている。また、合計特殊出生率は、県内都市で土岐市は海津市について 2 番目に低い数値で 0.99 であり、このままでは更に人口減少が進んでいくことが懸念される。これを真摯に受け止め、人口減少時代のまちのあり方を協議していく必要がある。土岐市総合計画は市民の参画を得ながら、私たちの目指す将来像と、それを実現するための政策を具体化して、まちの施策の指針となるものである。委員にはそれぞれの立場で、いろいろな観点で、市政全般についてご検討いただきたい。本日は、事務局からの説明が中心となるが、皆様の活発な意見、審議をいただきたい。

3 土岐市総合計画審議会について

事務局 総合計画及びその審議会について資料により説明。

会場 市長から、委員を代表して菊地委員に委嘱状を交付。

4 会長・副会長選出

会場 会長に菊地委員、副会長に石黒委員を選出。

5 諮問

会場 市長から菊地会長に諮問

6 議事

(1)第七次総合計画策定方針・スケジュールについて

会長 議事 1 について事務局に説明を求める。

事務局 資料 2、3、8 の説明。

A 委員 我々が若い時の 10 年と今の 10 年、これからの 10 年では時代の変化のスピードが違う。10 年計画が本当にいいのか考える必要がある。5 年くらいでも良い。責任をもって計画できるかを考えた場合、第六次総合計画でもなかなかできていない部分がある。もし現状が続けば、人口は減少し続け、衰退していく。国や県などは 10 年の計画を作るが、本当にそれで良いのか疑問。きめ細かくやらなくてはいけない。スペシャリティの人が行政にいて、5 年くらい責任をもって引っ張っていかないと、無意味なものになってしまう。

事務局 A 委員の言われるとおり、時代の変化はスピードがあり、市でも対応していく必要がある。そのため、総合計画を 2 層構造とし、基本構想は 10 年計画だが、実施計画は 3 年計画とし、毎年、事業評価をして見直しをしていく。併せて、前回の総合計画は、基本構想に 5 つの基本目標と 10 の分野、35 の施策を定めていたが、今回の基本構想は、基本目標と分野のみとし、施策は実施計画とし、よりスピード感をもって施策変更できる構成にしたい。また、前回の総合計画は、基本構想のみ審議会で議論し、実施計画は行政内部で作っていた。今回は、実施計画も審議会で議論し、実効性のある計画にしていく。

補足として、基本構想は 10 年計画だが、中間の 5 年で中間評価をし、必要に応じて見直ししていく。

会長 時代に合った実効性のある計画を策定するという回答。

(2)第六次総合計画について

会長 議事 2 について、事務局に説明を求める。

事務局 資料 4、5 について説明。

B 委員 市長の挨拶にもあったが、合計特殊出生率が危機的な状況で 0.99 であり、県内市で海津市に次いで低い、低い要因は何が考えられるか。

事務局 因果関係から現状をみると、国勢調査では生涯未婚率が高く、男女とも県内でワーストに近い値となっている。断言はできないが、結婚しないので子どもが生まれない要因になっているのではと考えている。

C 委員 資料に医療の充実が重要とあるが、土岐市も瑞浪市も個人診療所が多い。よその地域から来た先生が根付かないのではないかな。地域の医療を他地区と比較すると、軽い症状で病院にかかる人が多く、本当に必要な方に医療が提供できていないということを課題として考えなくてはいけない。地域の診療所がもう少し利用しやすくなると良い。数人のことより、多数の人のことを考える必要がある。新病院ができることで通えなくなる人もいると聞いている。医療の充実は、皆が通い易くするのも大事であり、大きい病院ができるからいいのではなく、地域の診療所を充実させていくのも大事だと思う。

事務局 今まであまり無い視点からのご指摘で参考になる。

D 委員 公共交通の充実について、この地域は主にバスが利用されているが、バスの本数が少ないため利用者が少なくなり、更に路線が減るという悪循環が起きている。高齢者が運転免許の返納を希望しても、バスの本数が少ない、料金が高いといった理由からバスを利用できず、結果的に免許を返納できない状況にある。財源は必要だが高齢者パスなどをすることで、利用促進をすることでバスの本数が増えるなど相乗効果が出ると良い。

事務局 ご指摘の内容は課題ととらえている。全国的にもバスの運転手不足が問題となっており、市として解決策を模索したい。

A 委員 アンケートの結果から、公共交通の不便さなど様々な問題が浮かび上がっている。全ての問題を解決するのは難しいとはいえ、特定の重点を定めて取り組むことで成功を収めることも可能である。例えば、公共交通の改善で駅周辺の環境が整い、買い物も便利になるということもある。それがきちんとできていない。1 点重点主義でも良いので、土岐市独自の施策を、徹底してやると変わってくる。全

てを同時に改善しようとするすると逆に失敗してしまう。交通機関の改善は重要で、それをやることで便利になると特色が出る。重要なことは、何を優先的に行うかという観点を明確にすることである。

E 委員 資料5のグラフの軸の長さが上下のグラフで違う。誤解を受けやすいので、同じページのグラフは同じ軸の長さになるように。

A 委員 アンケートでは様々な意見が集まるが、目標を立てすぎると全てを達成するのが難しくなる。そのため、土岐市は人口減少という最大の課題に取り組むべきと考える。市の大目標を人口増加に設定すれば、交通の便が改善されるなどの効果も期待できる。この大目標の下で、一つずつ具体的な施策を進めていくのが効果的だと考える。

F 委員 人口を増やすには、子育てが安心してできる地域でないと増えない。放課後教室の料金が安く、助かっている世帯も多いと思うが、学校で格差があり、十分な広さの教室もあるが、小さな部屋で大勢が活動している教室もある。子どもの数にあった教室を確保したりとか、料金を多少あげたりしても良い。子育てしやすいまちを目標にして成功している事例はある。高齢者は多少我慢しても、これからの子どもたちにお金をかけていくことも大事ではないか。

事務局 人口減少や公共交通に関しては、事務局としても大きな問題と捉えている。そういったことを今回の計画のなかに盛り込んでいく。どのように盛り込んでいくかを審議会で議論したい。

補足として、予算が潤沢にあるわけでもない。今の課題を解決するためのキーポイント、どこを抑えて、どのように展開していくのか、重点を置き皆様のいろいろな立場や視点からご意見をいただきたい。

(3)総合戦略について

会長 議事3について事務局の説明を求める。

事務局 資料6について説明。

G 委員 合計特殊出生率の0.99の要因として生涯未婚率が高いこと、委員からの意見で子育て環境を整備することが必要であること、利用しやすいが充実していないなどの意見があった。可能であれば今日の意見を、今後実施するアンケートや懇談会に反映していただきたい。

事務局 ウェルビーイングアンケートは既に始めているが、毎年1月頃に実施する市民意識調査は今年度も予定している。今後実施する市民アンケートは審議会の意見も踏まえさせていただく。

H 委員 「施策9」では若い世代の移住と定住を促している。土岐市の住民が子育てしやすい、出産しやすい地域だと感じるような取り組みを行っていると思うが、新たに転入する人への支援策や、市の魅力を増すための方策についてはどのように考えているのか。単に住みやすさだけでなく、福祉や観光といった要素を組み合わせた移住促進の方針を考えた方が、より効果的な結果が期待できるのでは。

事務局 土岐市は転入者支援として、定住奨励金として移住してきた方への支援はしているが、全国的にも実施されており、その中でどう差別化していくか、定住してもらうかが課題と捉えている。意見をいただきながら検討していきたい。

(4)第七次総合計画について

会長 議事 4 について事務局の説明を求める。

事務局 資料 7 について説明。

(委員からの意見無し)

会長 意見が無いようなので、全ての議事を終了する。

今後、スケジュールに沿って審議会で議論することになるので協力いただきたい。

7 その他

会長 その他、意見、質問はあるか。

C 委員 アンケートを紙面で送付すると思うが、若い方が答えるか疑問。若い人の意見を聞くために SNS を活用すると良い。医療の充実が一番となっているのは、回答者が主に高齢者だからではないか。これから土岐市に住む若い人からもっと意見を集め、それを反映させると良い。

事務局 市民アンケートを現在実施中で、2000 人を無作為抽出しており、若い人に限らず、広く市民の方を対象としている。アンケート票は郵送だが、QR コードを記載しており、WEB でも回答できるようにしている。今後、見直しできることについては、意見をいただきながら考えていきたい。

会長 アンケートについて提言があったが、土岐市はアンケート調査を毎年実施している。私の知る限り、毎年このような調査を実施している自治体はあまり見たことが無い。土岐市は市民の意見やニーズを把握しようと努力しており、素晴らしいと感じた。委員の意見を取り入れながら、より市民のニーズを反映できるよう改善して欲しい。市民アンケートと事業評価から、土岐市の課題が明らかになる。しかし、得られた結果がどうしてそうなったのかを詳しく分析した結果はこの資料からは分からなかった。内部で分析した資料も適宜提供していただきたい。生涯未婚率が高いとの情報も今後策定する総合計画には大変重要な情報であり、こういった情報も提供して欲しい。

以上で、予定していた議題を終了する。

8 閉会

事務局 次回第 2 回審議会は 12 月 23 日の月曜日、午後 2 時からを予定している。以上で、総合計画審議회를終了する。

(11 時 40 分終了)